

平成 28 年度 第 5 回 研究会, 研究委員会の近況と活動日程

上坂 貴志 栗島 聡

Activity Report: Committee of Study Groups

Takashi Uesaka Satoshi Kurishima

研究委員会では現在 7 の研究会活動とトワイライトサロンや研究委員会フォーラム等のイベントを運営しています。平成 28 年 10 月 1 日現在の各研究会活動と各種イベントの予定などを掲載しますので、ご興味のある研究会やイベントには是非積極的な参画をお願いいたします。

1. 研究会活動

(1) プロジェクト計画における QFD 応用研究会

(主査: 横山 真一郎 東京都市大学)

本研究会は、QFD (Quality Function Deployment : 品質機能展開) の考え方を援用することにより、情報の共有、知識の蓄積などを可能とする論理的なプロジェクト計画作成のための手法、方法論を検討することを目的に研究を行って来ました。最近では、QFD のみならず、プロジェクトにおける情報の定量化やシステム設計、さらにリスク分析など、QFD と関連の深い分野に関しても積極的に取り組んでいます。研究会の成果物は、研究発表会や国際会議において発表し、論文投稿を研究会員に奨励しています。現在は、プロジェクトの定量的管理を中心とした研究テーマでの議論を行っています。産学共同で、より深い議論を行うためにメンバーを募集しています。是非皆様方の研究への参加、また皆様方からの情報の提供をお待ちしています。

(2) リスク・マネジメント研究会

(主査: 武井 勲 武井勲リスク・マネジメント研究所)

プロジェクトの事例を収集し、そこから効果的なリスク・マネジメントの研修方法について検討をしています。また、新規性のあるリスク・マネジメント研修の内容について検討を開始しました。

(3) ソーシャル・プロジェクトマネジメント研究会

(主査: 河合 輝欣 ユー・エス・イー)

ソーシャル PM の体系化を目指して、社会の基盤情報システムとしての官公庁プロジェクト等に焦点を当てて研究会を行っています。

<直近の活動実績>

現在、当研究会では、社会インフラプロジェクトの事例研究として、総務省の「ICT 街づくり」や東日本大震災の復旧・復興の街づくりを研究テーマとし、ICT プロジェクトマネジメントの視点

から、知見・知識の集積を行い、知識や理論の体系化を試みています。

・ 9 月 15 日: 研究会開催

[場所: 豊洲センタービル 21 階 A 会議室]

作成中の「「ICT スマートタウン」導入・展開のためのガイドライン」について、レビューおよびディスカッションを実施しました。

[議事内容]

- ① ソーシャル・プロジェクトマネジメントを活用した街づくりプロジェクトのガイドラインとして、全般的にレビュー・修正を行った。
- ② ガイドラインについては、次回で完成版として仕上げるためのレビューを実施する。

【問い合わせ先】 yamamotot@nttdatacs.co.jp (山本)

(4) PM 人材育成研究会

(主査: 池田 修一 ポジティブ・ラーニング)

前回に引き続き、ステークホルダーの議論を継続しています。研究会でプロジェクトマネージャ向けの教育を行っているメンバーがおり、研修でプロジェクトマネージャが強化したい知識エリアについてアンケートを取ったところ、要求管理を含めたスコープマネジメントがトップであり、次がステークホルダーとコミュニケーションマネジメントであった。ただし、ファシリテーション、ネゴシエーション、リーダーシップ等の研修を含めると断トツに「人」に関するものが多いということである。それだけプロジェクトマネージャの悩みのほとんどは「人」に関することであり、ステークホルダーのマネジメントの重要性が理解できます。

8 月の研究会ではステークホルダーマネジメントについて再認識、再確認を行いました。

ステークホルダーマネジメントの目的は、「プロジェクトを成功させるために、各ステークホルダーの役割に応じた適切な行動を取ってもらうこと」であり、そのためには

- ・プロジェクトの全体（森）を見る
- ・ステークホルダーの役割と権限を知る
- ・各ステークホルダーの役割からプロジェクトを成功させるための行動を明確にして共有する
- ・ステークホルダーに適切な行動を取ってもらうためにプロジェクトマネージャがアクションを取る

ことが基本となります。

プロジェクトマネージャはステークホルダーと

- ・プロジェクトの目的
- ・SOW
- ・プロジェクトの状況

を共有し、プロジェクトの計画を実施し、コントロールを確実なものとしていきます。

ただ、ここまでは、基本的なステークホルダーマネジメントの考え方ですが、現実はいまうまくできていないプロジェクトがほとんどです。

9月の研究会では、ステークホルダーマネジメントがうまくできなかった人事改革プロジェクトの事例を議論しました。その中で以下のような意見がでてきました。

- ・現在のステークホルダーマネジメントでは、個人が対象になるが、組織という観点でも捉えた方が良いのではないか
- ・ステークホルダーのニーズは組織（建て前）と個人（本音）が存在する
- ・価値観の構造を分析する必要がある
- ・ステークホルダーの本気度を測る必要がある
- ・プロジェクトの進捗に従い、ステークホルダーの気持ちが変わる

これは実際にプロジェクトマネージャが悩むところであり、教科書には書かれていません。よって、これらの見解を継続して議論していくとともに、プロジェクトマネージャ向けのステークホルダーマネジメントに関する人材育成を検討していく予定です。

今後の活動：

11月度 プロジェクトに影響を及ぼすステークホルダー

【問い合わせ先】 pmcom2016@freeml.com

(5) メンタルヘルス研究会

（主査：前田 英行 日立公共システム）

メンタルヘルス研究に関するコミュニケーションの場として、毎月1回の定例会と年1回の国内外各地におけるワークショップを中心に活動しています。

メンタルヘルス不調に陥らないためにはどうしたら良いか。プロジェクト関係者のメンタルヘルス問題を予防し、プロジェクトの成功に貢献することがメインテーマです。

定例会は原則第三水曜日に勉強会・情報交換会を実施しています。5名から10名程度のメンバーが参加し、プレゼンター（持ち回り）が議題を提示します。参加メンバーの対話を通して、メンタルヘルス問題の予防策となる知恵の創造を図ります。



9/21 の定例会の様子

<参加メンバーが語る！「メンタルヘルス研究会」の魅力とは>

- ・メンタルヘルス不調に関する知見から、ポジティブ志向意識の重要性を把握できました！
- ・時として暗くなってしまうようなこのテーマを明るく前向きに語り合えるということが、本研究会の最大の魅力だと思います！
- ・会社関係者以外と知り合うことで、様々な考え方に触れることができ、仕事にも活かしています！

などなど。お気軽に体験参加してください。

<過去2か月の活動実績>

8月4日：ワークショップ開催@千葉工大

多くの大学でプロジェクトベース学習（PBL: Project-Based Learning）が導入され、大きな成果を上げています。PBLは和訳すると「課題解決型学習」となり、学習者がチームを組み、自分たちで課題を設定して解決していく学習法です。しかし、メンバーのやらされ感や基本的なマネジメントスキルの欠如により、PBLにおけるメンバーのモチベーション低下が指摘される等の問題もあります。

本ワークショップでは、千葉工業大学と芝浦工業大学のPBLを経験した学生が合同でワールドカフェを実施し、PBLにおけるリーダーシップ、コミュニケーション、ストレス等に関する問題点を

抽出し、楽しく効果的な PBL を実現するための方策について検討しました。

9 月 21 日：定例会開催

① PBL に参加している学生の意識調査結果

8 月 4 日に開催したワークショップについて、参加した学生の意識調査の結果報告を行いました。

コンフリクト発生後、放置するなどネガティブな対応を行うと、後々大きな問題に発展し、プロジェクトの失敗につながる場合があります。一方、建設的な話し合いを行うなどポジティブな対応を行うと、コミュニケーションの機会が増え、メンバー間の相互理解が進むことになり、多様な思考や視点が結びつくことで新たな知の創造につながるケースもあります。

コンフリクトに対しては、「解消すべきもの」という消極的なイメージがありますが、「活用する」という積極的な発想を持てると、プロジェクトマネジメントの可能性が広がるかもしれません。

② AI はどこまで社会に溶け込んでいるのか～家族と話せる AI トピック～

家族と話すことができる身近な AI を題材に、AI より人間の方が得意なことは何か、人間にしかできないことは果たして存在するか、について議論しました。特に盛り上がったのは「AI にプロジェクトマネジメントはできるのか」。みなさんのご意見を ML までお聞かせ頂ければ幸いです。

<今後の予定>

10 月 19 日：定例会開催予定

10 月 24 日：トワイライトサロン開催予定（テーマ：あなたのメンタルヘルス問題を改善）

【問い合わせ先】 pmmh_all@googlegroups.com

(6) プロジェクトのデータ解析と見積り研究会

（主査：梶山 昌之 DSR）

プロジェクトの規模、工数・コスト・工期・品質・リスクなどの測定量を正しく分析するためデータ解析手法を学び、見積りおよびプロジェクト計画への活用法を研究します。

現在の学習・研究テーマとしては以下の 4 つになります。

- ① 要求を仕様化する技術
- ② R 言語の学習と活用
- ③ アナリティクス手法の学習と活用
- ④ ソフトウェアメトリクス統計分析

要求を仕様化する記述については USDM (Universal Specification Describing Manner) で記述された仕様書からファンクション・ポイント (FP) を計測する方法について研究中です。

9 月から新たなテーマとして「ソフトウェアメトリクス統計分析入門」（小池利和著）の書籍を学習します。

要求の仕様化技術を学びたい方、基本的な統計を初歩から学びたい方、または、ビッグデータとそのデータ処理技術に興味がある方には参加をお勧めします。

<今後の予定>

会合は 1 回／月を目安に開催しています。

当研究会では現時点までの活動で、Capers Jones 氏の見積のすべて、Excel 統計、コスト評価知識体系 (CEBoK)、要求の仕様化技術、R 言語による分析事例、データマイニング手法などのコンテンツを蓄積しており、研究会メンバー参加者はこれらのコンテンツを社内の研修や論文作成などに活用できます。

また、毎回独立したテーマで参加者のスキルに合わせた運営を行っていますので途中からの参加も歓迎です。

(7) フロネシス PM（知恵ある実践）研究会

（主査：中村 太一 国立情報学研究所）

現在、暫定的に隔月の例会開催になっており、8 月は休会で、9 月 29 日に第 37 回の例会が開催されました。今回は、(株) パソナサイバーラボ 最高執行責任者 (COO) の米国人 Kenji Haga 氏をゲストに招き、“米国流プロジェクト・マネジャーのキャリアの作り方”と題して講演をいただきました。Haga 氏の豊富な（米国、カナダ、インド、日本など）グローバル・プロジェクトマネジメント経験で培われた日米の PM キャリアの違いについて具体的な話を伺いました。米国では、キャリアは積極的に自ら築いていく、そのためには、資格の取得、転職など自己責任で取り組むなどが、日本とは違う、などを自身の経験を含めて語ってくれました。日本との違いについて参加者同士で活発な意見交換がなされました。キャリアの作り方の違いは、社会・文化的の違いに起因しているので、どちらがベターかの判断はできないとしながらも、日本も米国流から学ぶ点もあるとの意見も出されました。

次回は、11 月 24 日を予定しています。

2. その他

活動中の研究会への参加や、新規研究会活動に関する問い合わせは下記までご連絡をお願いします。

【問い合わせ先】 pmKenkyu@jp.ibm.com

研究委員会委員長 上坂 貴志

研究委員会委員 笠崎 裕子／福村 文裕